

《明治大正文學研究資料》

『スバル』 總目次

岩城之徳編

扉、第壹號 明治四十二年一月一日發行 一六八頁

附録 プルムウラ (戯曲) (三頁) 森 林太郎

荒 布 橋 (小説) (三) 木下 李太郎

赤 痢 (小説) (四) 石川 啄木

嵯 峨 まで (小説) (六) 故玉 野 花子

友 (小説) — ヘルマン・ヘッセ (八) 茅野 蕭々

大 畑 駅 (小説) (三) 与謝野 寛

起 床 前 (散文) (二) 小山内 薫

小 品 四 種 (散文) (三) 江南 文三

泡・子子虫・白障眼・空のずれる音

偉なる野の鶏の歌 (散文) — レオバルヂ (七) 阿部 次郎

草 笛 (散文) (一〇) 平田 秃木

オプロモオキズム (論文) — ドブロリユウボフ (二四) 馬場 孤蝶

落 日 (長詩) (一) 蒲原 有明

邪宗門新派体 (長詩) (三) 北原 白秋

胎児外二編 (長詩) (六) 栗山 茂

粗き調べ (長詩) (三) 平野 萬里

母 (長詩) — アダ・ネグリ (四) 上田 敏

謎 の 女 (長詩) (五) 薄田 泣童

絃 余 集 (短歌) (三) 与謝野 晶子

うすなさけ (短歌) (五) 吉井 勇

し づ 機 (短歌) (七) 茅野 雅子

新詩社詠草 (短歌) (八) 北川 英美子

新詩社詠草 (短歌) (九) 新詩社同人

新詩社詠草 (短歌) (一〇) 新詩社同人

新詩社詠草 (短歌) (一六) 新詩社同人

新詩社詠草 (短歌) (一八) 新詩社同人

雜 録 — 予告、海外消息、(ジヨリオの少女)、寄合語、消息：(二五)

「スバル」(表紙画)  
シャルル・ボドレエルの面(挿画)  
森林太郎氏のカリカチュウル(裏画)

和田英作

扉第貳號

明治四十二年二月一日発行 一六四頁

(表紙画「スバル」)

和田英作

南蠻寺門前(脚本)

(一) 木下 李太郎

損害(脚本)

(三) 与謝野 晶子

ユリウス・パツプの戯曲論(論文)

(四) 森 林太郎

鴛の歌(詩)

(五) 北原 白秋

我妹(短歌)

(六) 平野 萬里

「温室」(詩—マアテルリンク)

(七) 上田 敏

異邦集(詩)

(八) 栗山 茂

句ひ(短歌)

(九) 茅野 雅子

起床前(散文)

(一〇) 小山内 薫

新詩社詠草(短歌)

(一一) 藤条 静

知らざる神に(詩)

(一二) 茅野 蕭々

磧(詩)

(一三) 多田 鉄雄

新詩社詠草(短歌)

(一四) 新詩社同人

温室(詩)

(一五) 薄田 泣菫

南枝集(短歌)

(一六) スバル同人

文字の起原(散文)

(一七) 平野 萬里

足跡(小説) (二九) 石川 啄木

海外消息——〇地下一尺録(李太郎) 〇零碎言(密生)

——〇諸会合——〇消息

(裏画「南蠻寺門前」)

木下 李太郎

扉第參號

明治四十二年三月一日発行 一二八頁

(表紙画「スバル」)

和田英作

午後三時(脚本)

(一) 吉井 勇

尺牘四則(散文)

(二) 長田 秀雄

半日(小説)

(三) 森 林太郎

ふかしき事(長詩)

(四) 石井 柏亭

生温き日(長詩)

(五) 山本 鼎

唄ふメヅサ(散文)

(六) 木下 李太郎

未亡人(小説)

(七) 茅野 蕭々

西藏探険の物語(長詩)

(八) 栗山 茂

懈怠(長詩)

(九) 多田 鉄雄

起床前(散文)

(一〇) 小山内 薫

新詩社詠草(短歌)

(一一) 与謝野 晶子

哀慕集(短歌)

(一二) 茅野 雅子

旅行紀念(写生画四葉入)

(一三) 山春野・李太郎

癡歌(短歌)

(一四) 吉井 勇

三月集(短歌)

(一五) 北原 白秋

公園の薄暮

(一六)

- 吾人の小説批評の態度 二月の小説(李太郎)
- 掠鳥通信(無名氏) 〇短歌界消息(少陵子)
- 〇消 息 〇うめ草(短歌) 李太郎

〔裏画「鶴瀬橋歌会」 平福百穂〕  
 昴第四號 明治四十二年四月一日発行 一〇七頁  
 〔表紙画「スバル」 和田英作〕

- 夜の官能(長詩) (一) 北原白秋
- 蛇の ANDANTE(長詩) (三) 蒲原有明訳
- 原作 ARTHUR SYMONS 作
- 砂覆盆子(小説) (五) 江南文三
- 江村偶作(長詩) (二) 石井柏亭
- 長詩三章(長詩) (二六) 生田長江
- 誕生(小説) (三) 茅野蕭々
- 反古より(散文) (四) 与謝野晶子
- 燕の夜(短歌) (四) 茅野雅子
- その夜(短歌) (四) 吉井勇
- オプロオモウイズム(論文) (四) 馬場孤蝶
- ――承前――
- 尺牘數則(散文) (四) 長田秀雄
- 小品三篇(散文) (五) 江南文三
- 出来物の頭・河豚・銭の踊
- 騒音(短歌) (六) 平出修・川上賢三
- 西のひと(短歌) (六) 土岐越水等

- 朝 (短歌) (六) 昴 同人
- 我生きたり(長詩) (七) 上田 敏
- 雜録〇むく鳥通信(無名氏) 〇オスカアワイルドの詩
- 〇前途開く 〇やさしきアンリの手紙
- 〇三月の小説 〇最近短歌界
- 〇巴里より 〇消 息

附録 仮面(脚本) 森 林太郎

〔裏画「パンの会に於ける太田、ルンプ、北原、吉井」 柏亭〕  
 昴第五號 明治四十二年五月一日発行短歌号一五〇頁

- 〔表紙画「スバル」 和田英作〕
- 我百首(短歌) (一) 森 林太郎
- 燈台直下(脚本) (二) 木下 李太郎
- 破首 麩(短歌) (三) 吉井 勇
- 百首歌(短歌) (四) 与謝野 晶子
- 悪のにはひ(長詩) (五) 北原 白秋
- 赤火(短歌) (五) 平出 修
- 莫復閑(短歌) (六) 石川 啄木
- 〔六十九首〕
- 鸚鵡石(對話) (六) 森 林太郎
- 似非百首(短歌) (七) 与謝野 寛
- よせあつめ(短歌) (八) 平野 萬里
- 抱擁(長詩) (八) 栗山 茂

もののはれ(短歌) (九) 北原白秋  
 心よ(短歌) (六) 茅野蕭々  
 むく鳥通信(雑録) (九) 無名氏  
 選歌 ○死 (四) 森林太郎選  
 ○赤 (四) 北原白秋選  
 ○秋 (二七) 石川啄木選  
 ○夏 (三〇) 平野萬里選  
 ○黒 (二四) 吉井勇選  
 ○青 (三三) 茅野蕭々選

雑録詩集 ○邪宗門を評す (木下奎太郎)  
 ○日本現代洋画の批評に就て(同人)

○各地短歌会詠草 ○消息  
 (裏画「海辺の漂泊者」フリッ、ルンプ)

昂第六號 明治四十二年六月一日発行 一三六頁

をかしき唄(訳詩) (一) 永井荷風  
 HUMORESQUE-Tristan Klingsor.  
 魔睡(小説) (四) 森林太郎  
 浅草観音堂(脚本) (二五) 吉井勇  
 濁血(脚本) (五) 林久晃  
 青き歌(詩) (八) 栗山茂

桜の下(小品) (三) 江南文三  
 妻(長詩) (七) 茅野蕭々  
 ゆく春(短歌) (九) 茅野雅子  
 夜の偶像(長詩) (九) 長田秀雄  
 梭の音(長詩) (九) 山本鼎  
 後の歌(短歌) (九) 吉井勇  
 冬(選歌) (三〇) 与謝野寛選  
 春(選歌) (三〇) 与謝野晶子選  
 白(選歌) (二八) 平出修選  
 鈴の音(長詩) (三三) 与謝野寛  
 (雑録) むく鳥通信(雑録) (三三) 無名氏  
 ○正誤 ○消息  
 註一三六頁に酒場と題する吉井勇の詩あり。  
 (裏画「扇模様」フリッ、ルンプ)

昂第七號 明治四十二年七月一日発行 一四五頁

カタ・セクスアリス(小説) (一) 森林太郎  
 「悪の華」より(詩) (九) 永井荷風  
 LES FLEURS DU MAL Bandelaire  
 訳詩二章 大都にて、遅し(詩) (九) 茅野蕭々  
 Deley Von Lieincron  
 梅雨・女の室(詩) (一〇) 石井柏亭  
 雑録 掠鳥通信(散文) (一〇) 無名氏

途 上 (散文) (三三) 平野 萬里

新富座の「仮面」 (画) (二九) 太田 正雄

運 (マアク・トウエン) (小説) (三五) 佐々木 邦

山のしづく (短歌) (三七) 青 連 尼

昂 詠 草 (短歌) (三七) スバル 同人

佐 保 姫 (散文) (四二) 舎 密 生

昂 第八號

(裏画「仮面」) 明治四十二年八月一日発行 二二七頁

(表紙画「スバル」)

和田 英作

夏のおもひで (短歌) (二) 吉 井 勇

鶏 (小説) (二〇) 森 林太郎

悪の華より (長詩) (三元) 永 井 荷 風

お も と (小説) (四五) 茅 野 蕭々

玻璃 間 屋 (長詩) (五) 木 下 李太郎

病める 東京 (長詩) (六) 長 田 秀 雄

縦 書 き (小品) (六) 平 野 萬 里

変り 眼 鏡 (小品) (六) 江 南 文 三

むく鳥 通 信 (雑録) (六) 无 名 氏

鷗の 死 骸 (脚本) (八) 吉 井 勇

風 狂 調 (短歌) (一〇) 香 川 不 抱

ゆ ふ 月 (短歌) (一〇) 平 山 良 子

星 の 歌 (短歌) (一〇〇) 昂 同 人

消 息 (裏画「そのおもかげ」)

昂 第九號 明治四十二年九月一日発行 一三二頁

(表紙画「スバル」) 和田 英作

金 貨 (小説) (一) 森 林太郎

フランチェスカ物語 (脚本) (二四) ダンヌンチオ作 石川 戯 庵 訳

訳 詩 三 篇 (長詩) (六) 永 井 荷 風

夜の 小鳥、帰らぬ昔、無題 (ポール、ヴェルレーヌの作)

HENRI-MATISSE の 画 論 (評論)

最近 独逸 脚本 梗概 (雑録) (七) 高 村 碎 雨

哀 調 (短歌) (七) 森 林太郎

初 秋 (短歌) (一〇) 北 原 白 秋

夜 話 (小説) (一〇) 茅 野 雅 子

それでおれは風邪を引いた (小品) (一三) 平 野 萬 里

むく鳥 通 信 (雑録) (一六) 江 南 文 三

一 夜 泉 (短歌) (一三) 无 名 氏

鷄 頭 (短歌) (一五) 吉 井 勇

昂 詠 草 (短歌) (一六) 京 都 沛 蕃 社 詠 草

消 息 (裏画「屋根の草」) (一六) スバル 同人

高 村 碎 雨

ECCOMI NELLA MIA PATRIA I (短歌)

絲の園(詩) (一) 高村 碎雨  
LE HASCHICH (散文) (三) 石井 柏亭  
(CH. BAUDELAIRE) (五) 高村 碎雨

UNE RECITATION DE SALAMBO

(一) ERN EST REYER

楽講解説 (一〇) 無名氏  
椋鳥通信 (三) 無名氏  
再會(小説) (三) 茅野 蕭々  
避暑(小説) (四) 岡田 八千代  
訳詩三篇 (五) 永井 荷風  
嘆息(ステファン・マラルメ)音楽と色彩と匂ひの記憶(エミル  
ウオオケエル)秋のいたましき笛(マア・ユフ・エロオル)  
わが窓(短歌) (六) 平野 萬里  
葉鶏頭(短歌) (七) 与謝野 晶子  
ふらんちえすか物語(脚本) (八) 石川 戯庵  
想の薄明(詩) (八) 木下 奎太郎  
葉書(小説) (九) 石川 啄木  
棺桶の中で聞いた音(散文) (一〇) 江南 文三  
わすれ草(短歌) (一一) 平出 修  
低唱(短歌) (一二) 茅野 雅子

HENRI MATISSE の画論(三)

新詩社詠草(一) (一二) 高村 光太郎

百斯篤(小説) (一三) 新詩社同人

昂詠草 (一四) 平野 萬里

新詩社詠草(二) (一五) スバル同人

金毘羅(小説) (一六) 新詩社同人

消息 (一七) 森 林太郎

(裏画「大威徳明王」(カリカチエウル)高村 碎雨)

昂第拾壹號 明治四十二年十一月二日發行 一六九頁

(表紙画「スバル」 和田 英作)

静 (二幕二場) (脚本) (一) 森 林太郎

桂の葉(長詩) (二) 茅野 蕭々

驚いざなひ、寝ある胸より、夕、二人

六月の夜(小説) (三) 木下 奎太郎

Y QUE M'AS DA? (短歌) (四) 高村 碎雨

写真(小説) (五) 森 しげ女

ふらんちえすか物語(脚本) (六) ダンメンチオ作  
石川 戯庵訳

訳詩二篇(長詩) (七) 永井 荷風

沼(ヒエエル、ゴオチエ)池(エドモン、ピカール)

椋鳥通信(雑録) (八) 無名氏

J. K. HUYSMANS の「E」里の学生(一) (九) 高村 碎雨

乗合馬車の車掌

検痘医(小説) (二二) 平野萬里

PANの掬(短歌) (二六) 吉井勇

新詩社詠草(短歌) (二九) 新詩社同人

反古より(小品) (四四) 与謝野晶子

(妻、縮緬、秘密、雑布がけ)

小品三篇(小品) (四六) 江南文三

白いねんねえ、赤梨罐、口惜涙

昴詠草(短歌) (五〇) 昴同人

一夕話(展覧会画評) (五九) 永井荷風外数人

文部省展覧会の西洋画及び彫刻について

消息

(裏画「馬場先門の石垣」高村光太郎)

昴第拾貳號 明治四十二年十二月二日発行 一四八頁

(表紙画「スバル」和田英作)

波瀾(小説) (一) 森しげ女

ふらんちえすか物語(脚本) (三) ダンナンチオ作  
石川戯庵訳

詩訳二篇(長詩) (六) 永井荷風

仏蘭西の小都会(アンリイ、ド、レニエ) 葡萄(同)

むく鳥通信(雑録) (空) 無名代

四十一首(短歌) (七) 江南文三

J. K. HUYSMANSの「E里の写生」(小品) (七) 高村光太郎

理髪店

雑草(小説) (三) 茅野蕭々

影と形(脚本) (九) 森林太郎

(一幕二場) (煤烟の序に代ふる対話)

母のうたへる(長詩) (一〇七) 茅野雅子

男よ(散文) (一〇九) 江南文三

新誌社詠草(短歌) (一一) 新詩社同人

昴詠草(短歌) (一五) 五十三人

きれぎれに心に浮んだ感じと回想(雑録)

水莊記(短歌) (一一) 石川啄木

新詩社詠草(短歌) (一二) 吉井勇

各地短歌会詠草 ○消息 (一三) 新詩社同人

(裏画「ロダン作歡樂の半獸神」高村光太郎)

昴第貳年 第壹號

明治四十三年一月二日発行 第二短歌号 二八八頁

(表紙画「スバル」和田英作)

独身(小説) (一) 森鷗外

民衆(散文) (二) 蒲原有明訳

(ポオドレニル)

第三回文部省展覧会最後の一瞥(批評)

訳詩三篇(長詩) (一八) 高村光太郎

われはあゆみき(アンリイ・ド・レニエ) 夕暮、秋

あだ花(小説) (四八) 森しげ女

わかき歌(短歌) (五五) 茅野蕭々

事務室の一夜 (脚本) (九) 平野 萬里  
(一幕一場)

噓 (短歌) (二四) 渡辺 紫

千夜集 (短歌) (二六) 生田 春月

夏の夢 (散文) (二八) 平田 禿木

日かげの停車場 (長詩) (三〇) 三木 露風

寒夜 (短歌) (三三) 平野 萬里

影 (短歌) (三六) 長島 豊太郎

平調 (長詩) (三六) 茅野 雅子

暮秋、病児 (脚本) (三三) 長谷川 時雨

空 狂調 (短歌) (三六) 香川 不抱

新詩社詠草 (短歌) (三九) 大貫かの子等

駆落者 (脚本) (四二) 与謝野 晶子

医師ドオバンの首 (脚本) (四五) 木下 李太郎

舞台と奈落 (小説) (七) 長田 幹彦

劇場を出でたる男 (小説) (八) 恒川 石村

旅にて歌へる (短歌) (九) 平出 修

新詩社詠草 (短歌) (一〇) 上野 夏雄等

J. K. HUYSMANS の「田里の写生」三 (小品) (一一) 高村 光太郎

鮮、焼栗壳 (小品) (二四) 故上 野花子

巻煙草 (小説) (二七) 長田 秀雄

あけがた 曉

評論 (評論) (三三) 石川 啄木

一年間の回顧、巻煙草 (短歌) (三九) 長田 秀雄

詩 二篇 (詩) (三七) 長田 秀雄

薄暮鋪銀調、棹色の幻影 (小品) (三七) 長田 秀雄

三本木より (小品) (三七) 長田 秀雄

或夕のきまぐれ (詩) (三六) 与謝野 寛

蟾蜍 (詩) (三五) 上田 敏

TRISTAN CORBIERELE CRAPAUD (小品) (三七) 四谷の老人

老人より (小品) (三六) 高村 光太郎

消息 (裏面「阿羅漢」)

昴第二年 第二號 明治四十三年二月一日発行 二三三頁

(表紙画「スバル」 和田 英作)

AB HOC ET AB HAC (画評) (一) 高村 光太郎

漫画 (詩) (九) 石井 柏亭

冬曉、朝湯、博物館、師走 (小品) (一四) 鷗 外

里芋の芽と不動の目 (小説) (三) 木下 李太郎

老いたる人の海岸の独白 (詩) (三) 木下 李太郎

老いたる人の海岸の独白、雪中の葬列 (小説) (二六) 平野 萬里

活動写真 (小説) (三七) 与謝野 晶子

夢 (短歌) (三七) 与謝野 晶子



天分の覚醒(散文) (四) 茅野蕭々  
(August Strindberg が自伝の一節)

町の小唄(詩) (四) きしのあかしや  
林檎屋の娘、夜学校、道のあちこち、お花さん

制作(EMILE ZOLA) (小説) (四) 高村光太郎

水 莊 記(短歌) (八) 吉井 勇

温 習 会(小説) (八) 茅野 雅子

風 来 犬(短歌) (九) 萬造寺 齊

舞 姫 ダアヤ(脚本) (九) 長田 幹彦

初 若 茶(短歌) (三) 間島 琴山

むく鳥通信(雑録) (三) 無 名 氏

旅 婦(小説) (四) 森 しげ女

J. K. HUYSMANS の「巴里の写生」(四)

旋頭歌 (二) 高村 光太郎

詩 三 篇(詩) (二) 三木 露風

暗き地平、魚、過ぎし日の窓辺 (二) 三木 露風

温 室(短歌) (二) 新詩社同人

六月の日記(散文) (七) 江南文三

尼寺の記憶(詩) (七) 室生 犀星

昴 詠 草(短歌) (八) 藤三千緒等

地方短歌会詠草(短歌) (二) 京都浦藩社等

帰れる船(脚本) (三) 吉井 勇

新浦島、蛙(詩) (三) 興謝野 寛

消 息 (三) 編集室より

裏画「SALAMANDRA」高村 光太郎

昴 第 二 年 第 参 號 明治四十三年三月一日発行 一六〇頁

(表紙画「スバル」 和田英作)

猩 紅 熱(小説) (一) 森 しげ女

「心とその周囲」六篇(詩) (一〇) 北原 白秋

Ⅰ 小さな領内の平和 Ⅱ 午後の郷愁 Ⅲ S 組合の白痴 Ⅳ 泣きごえ Ⅴ 銀色の背景 Ⅵ 神絲の凝視

水 莊 記(歌) (三) 吉井 勇

制 作(小説) (三) 高村光太郎記

(EMILE ZOLA)

薄暮のハルチナチオン(詩) (三) 長田 秀雄

薄暮のハルチナチオン、竹本小工佐、夜の講渠

白 鷗(歌) (四) 萬造寺 齊

芽 鷗(歌) (四) 間島 琴山

むく鳥通信(雑録) (四) 無 名 氏

(一九一〇年一月六日発)

塵 の 音(歌) (七) 長島 豊太郎

DYNAMITE (歌) (七) 渡 辺 紫

風 狂 調(歌) (七) 香川 不抱

悪 酒(歌) (七) 山城 正忠

遠 出(小説) (八) 平野 萬里

続 町 の 小 唄(詩) (三) きしのあかしや

窓の女、幕間、ねざめ、八百屋、とも子、鳥屋、今日の芝居、工場がへり、貫一、酒の入荷



子の病	(小説)	(一)	小金井	きみ子
落紅	(歌)	(二)	間島	琴山
彗星	(歌)	(二五)	山城	正忠
少女	(歌)	(三)	藤岡	長和
青年	(小説)	(三三)	鷗	外
鏡影	(歌)	(四)	長島	豊太郎
俳諧	(歌)	(四)	渡辺	紫
海こえて	(歌)	(五)	和具	彦太
青い鳥	(脚本)	(五)	金星	草訳
(Maurice maeterlink)				
ごみが飛ぶ	(詩)	(七)	小山内	薫
弱者	(小説)	(七)	萬造寺	齊
夏の記	(歌)	(四)	いその	をとめ
むく鳥通信	(雑録)	(七)	無名	氏
子	(小説)	(三)	茅野	雅子
友達の結婚、バツクの大臣、流産				
(小説)				
森	(四)	しげ女		
新詩社同人	(二五)			
平野	(六)	萬里		
山本	(六)	鼎		
木下	(七)	奎太郎		
新詩社同人	(九)			
草	(二四)			

地方短歌会詠草 (歌)

(三三)

LE BAISER (裏面)

Mlle. AMITIE.

昂第二年 第六號 明治四十三年六月一日発行 一七三頁

昂 (表紙画)

和田英作

春の一日	(小説)	(一)	小金井	きみ子
京都より	(歌)	(二)	吉井	勇
檻と柵	(歌)	(三)	田村	黄昏
女中の横目	(小説)	(六)	平野	萬里
むく鳥通信	(雑録)	(三)	無名	氏
暮春と初夏	(歌)	(五)	萬造寺	齊
麁	(歌)	(五)	和具	彦太
青年	(小説)	(六)	鷗	外
夜の歌	(詩)	(七)	生田	長江
(ニイチエのツアラトウストラより)				
埠頭と酒場	(小品)	(七)	長田	幹彦
俳諧	(歌)	(六)	渡辺	紫
淡緑色	(歌)	(七)	長島	豊太郎
朝がへり	(小説)	(八)	茅野	雅子
石榴花	(歌)	(九)	新詩社同人	
一月の日記	(散文)	(三)	江南	文三
(一月より十日まで)				
芸術上の真に就いて (論文)				
二三の脚本の筋書	(梗概)	(二)	阿部	次郎
		(二)	鷗	外

鬱金香(歌) (二四) 新詩社同人  
相棒(小説) (二六) 本間 久

(ユリキイ)

昂詠草(歌) (二六)

地方短歌会詠草(歌) (二七)

消息

池の夜(裏画)

高村 光太郎

昂第二年 第七號 明治四十三年七月一日発行 二一二頁

昂(表紙画)

和田 英作

畜生外三篇(詩) (一) 北原 白秋  
畜生、解雪、隣人、心中

出さずにしまつた手紙の一束(散文)

(巴里より)

(二〇) 高村 光太郎

たんぼの毛(歌) (二二) 間島 琴山

THE ILLUSION(歌) (二三) 広川 菽泉

青年(小説) (二五) 鷗 外

訳詩二篇(詩) (二六) 永井 荷風

庭、瓶(アンリイ・ド・レニエ)

漂 迫者(歌) (二八) 和貝 彦太

あづまこおと(小説) (三〇) 小金井 きみ子

白と金と赤(歌) (三三) 長島 豊太郎

俳諧歌(歌) (三六) 渡辺 紫

むくどり通信(雜録) (三八) 無名氏

(一九一〇年五月七日発)

夏の夜の(小説) (三九) 興謝野 晶子

秋の旅(小品) (四〇) 茅野 蕭々

Hermann Hesse 湖上、旅館

胡 類子(歌) (四二) 山城 正忠

寒 女(小説) (四三) 生田 葵

白 雨集(歌) (四四) 新詩社同人

うす暗い家(小説) (四五) 茅野 雅子

詩三章(詩) (四六) 長田 秀雄

指の毒(歌) (四七) 新詩社同人

前号所載「一月の日記」のつづき(散文)

間 引 菜(小説) (四八) 江南 文三

土佐より(歌) (四九) 森 しげ女

実験時代(戯曲) (五〇) 平出 修

昂詠草(歌) (五一) 木下 李太郎

地方短歌会詠草(歌) (五二)

DAIYOU (裏画) AUGUSTE RODIN

昂第二年 第八號 明治四十三年八月一日発行 一八八頁

昂(表紙画)

結 婚(戯曲) (五三) 和田 英作

紅 粉 篇(歌) (五四) 山崎 春雄

夏の記(歌) (五五) 吉井 勇

(京都雜詠第二)

いそのをとめ

青	年(小説)	(五)	鷗	外
白	楊(歌)	(六)	長島	豊太郎
制	作(小説)	(六)	高村	光太郎
	(EMILE ZOLA)			
訳	詩二章(詩)	(七)	茅野	蕭々
	旅うた、經驗(Nach Hofmannsthal)			
雨	(歌)	(八)	田村	黄昏
椋	鳥通信(雑録)	(八)	無名	氏
	(一九一〇年六月十日発)			
長	詩三章(詩)	(九)	吉井	勇
	NECTARINE No.7。怠惰フラック。新聞のほひ			
海	草の花(歌)	(二)	和貝	彦太
粽	(小説)	(二)	小金井	きみ子
青	曉集(歌)	(三)	新誌社	同人
同	級会(小説)	(四)	森	しげ女
詩	二篇(詩)	(五)	北原	白秋
	鬼百合、金の入日に繻子の黒(一九一〇年七月二十六日)			
鏡	影(歌)	(五)	新詩社	同人
三	月の日記(散文)	(六)	江南	文三
聶	詠草(歌)	(七)		
各地	短歌会詠草(歌)	(八)		
消	息	(八)		
禮	嚴法師歌集序(散文)	(一五)	与謝野	寛
	ロタン作塑像(裏面)			

扉第二年 第九號 明治四十三年九月一日発行 一九八頁  
 晶(表紙画) 和田英作

夜	の港の悲哀(詩)	(一)	木下	李太郎
	(老いたる人の海岸の独白二)			
半	夏(小説)	(六)	島村	琴三
静	物(詩)	(三)	北原	白秋
	静物、八月のあひびき			
偶	像の曙光(訳文)	(六)	生田	長江
	(一九一〇年七月七日発)			
ある	女の手紙(小説)	(七)	永代	美知代
	(Götzen-dämmerung) 原作、その他二			
醒	余集(歌)	(九)	山城	正忠
青	年の(小説)	(九)	鷗	外
市	の声(歌)	(二)	長島	豊太郎
む	く鳥電報(雑録)	(三)	無名	氏
妬	水荘(小説)	(六)	小金井	きみ子
統	水荘(記)(歌)	(三)	吉井	勇
散	歩(小説)	(三)	金	星
白	萩(歌)	(四)	三ヶ島	葭子
お	なかさ(小説)	(四)	江南	文三
深	川の唄(歌)	(五)	川上	賢三
秋	のしづく(歌)	(五)	原田	琴子
内	証事(小説)	(六)	森	しげ女

- 月 光 (歌) (一六) 新誌社同人
- 吉井君の歌 (批評) (一七) 平出 修
- 昂 詠 草 (歌) (一八)
- 各地短歌会詠草 (歌) (一八)
- 名古屋より (書簡) (一八) 平出 修
- かきおき (散文) (一九) ぶ ん ざ
- 消 息 (一九)

SARAH BERNARDT (装画) GUSTAV GÉROME

昂 第三年 第拾號 明治四十三年十月一日発行 二四六頁

昂 (表紙画)

和田 英作

- 殖民地の夜 (小説) (一) 平野 萬 里
- 竹 枝 集 (詩) (一五) きしのあかしや
- 石竹花、緋網裏、こぞの冬、紙入、秋、なでしこ
- シリオの娘 (戯曲) (一六) ダンヌンチオ作 石川 戲 庵 訳
- 金 砂 (歌) (一六) 三ヶ島 叡 子
- 毒 の 花 (歌) (一六) 長 島 豊 太 郎
- 里 子 (小説) (一六) 永 代 美 知 代
- 君 により (歌) (一七) 原 田 琴 子
- 蟹 の 泡 (説) (一七) 広 川 菽 泉
- 親 の 妻 (小説) (一七) 小 金 井 き み 子
- 椋 鳥 通 信 (雜録) (一九) 無 名 氏
- 椋 鳥 電 報 (雜録) (一九) 無 名 氏

- ぶんざの十六首 (歌) (一九) ぶ ん ざ
- 賢者の妻 (小説) (二〇)

アルトウウル・シユニツツレル

- 子 (小説) (一五) 島 村 荃 三

- 夏のなごり (歌) (一六) 堀 口 大 学

- 青 年 (小説) (一六) 鷗 外

- 海 の 悲 哀 (対話) (一七) 長 田 幹 彦

- に が よ も ぎ (歌) (一九) 藤 岡 長 和

一、くさぐさの歌。二、ふるさとに帰りにて。三、黄昏と伊豆に遊びて。四、女とわかれて

- 薄 (小説) (一九) 与 謝 野 晶 子

- 古 香 (歌) (一九) 川 上 賢 三

- 鴉 (歌) (一九) 渡 辺 紫

- 荷 物 (小説) (二〇) 森 しげ 女

- 菊 が さ ね (歌) (二〇) 新 詩 社 同 人

- 孔 雀 へ (歌) (二〇) 吉 井 勇

- 鳥 か ぶ と (歌) (二二) 新 詩 社 同 人

- 昂 詠 草 (歌) (二二)

- 各地短歌会詠草 (歌) (二二)

- 太平寄合話 (雜録) (二六) 無 明 薰 習 生 筆 記

- かきおき (二) (散文) (二六) ぶ ん ざ

- をんなのうた (歌) (二六) な か 子

消 息

影像(裏面)

(四〇) AUGUSTE RODIN.

昂第三年 第拾壹號

明治四十三年十一月一日発行 第三短歌号 二〇四頁

霜 の 花(歌) (一) 与謝野 晶子

DES QUONNAS (歌) (二) 高村 光太郎

秋のなかばに歌へる(歌) (三) 石川 啄木

青 年(小説) (四) 鷗 外

澱 (歌) (五) 田村 黄昏

焔 (小説) (六) 木下 李太郎

紅き墓場(歌) (七) 萬造寺 齊

向嶋の家(小説) (八) 小金井 きみ子

橙 黄 色(歌) (九) 長島 豊太郎

謎 の 花(歌) (一〇) 広川 菽泉

「思ひ出」三章(詩) (一一) 北原 白秋

骨牌の女王の手にもてる花、願人坊、どんぐり

青きしづく(歌) (一二) 藤岡 長和

楯 の か げ(歌) (一三) 堀口 大 学

貸 家(小説) (一四) 森 しげ女

壁 の 香(歌) (一五) 和貝 彦太

さびしき髪(歌) (一六) 原田 琴子

崩 壊(歌) (一七) 山城 正忠

むく鳥通信(雑録) (一八) 無 名 氏

裂けし柘榴(歌) (一九) 渡 辺 紫等

菊のいろいろ(歌) (二〇) 三ヶ島 葦子等

むく鳥電報(雑録) (二一) 無 名 氏

昂 詠 草(歌) (募集短歌)

選者 与謝野寛、与謝野晶子、北原白秋、茅野蕭々、吉井勇

与謝野寛選歌 (二二)

与謝野晶子選歌 (二三)

北原白秋選歌 (二四)

茅野蕭々選歌 (二五)

吉井 勇選歌 (二六)

各地短歌会詠草(歌) (二七)

かきおき(散文) (二八) ぶ ん ぎ

哀 調(歌) (二九) 茅野 蕭々

秋のおとつれ(歌) (三〇) 北原 白秋

鎌倉ぶみ(歌) (三一) 吉井 勇

ありのすさび(歌) (三二) 茅野 雅子

新詩社詠草(歌) (三三) 与謝野 寛

お俊伝兵衛(詩) (三四) 与謝野 晶子

消 息(歌) (三五) 和田 英作

昂(表紙画)

BETOVEN(裏面) A.F. BOURDELLE

昂第三年 第拾二號

明治四十三年十二月一日発行 一三三頁

昂(表紙画)

和田英作

続水莊記(歌)

(一) 吉井 勇

その二

かきおき(四)(散文)

(八) ぶ ん ざ

灰色と桃色と(歌)

(四) 萬造寺 齊

青 年(小説)

(四) 鷗 外

ヨリオの娘(戯曲)

(五) ダンメンチオ作  
石川 戲庵訳

むく鳥通信(雑録)

(二五) 無 名 氏

むく鳥電報(雑録)

(三三) 無 名 氏

山の 霜(歌)

(三四) 長 島 豊太郎

夢 の 歌(歌)

(三七) 堀 口 大 学

火 の 事(小説)

(三〇) 森 しげ女

寒 草(歌)

(三七) 新詩社同人

日 曜(小説)

(三五) 萬造寺 齊

寒 梅 集(歌)

(六五) 新詩社同人

落 合(小説)

(七四) 島 村 琴 三

死 (歌)

(八三) 石 川 啄 木

海上より(歌)

(八四) 武 富 栄 一

大漁丸にて

習 作第一(詩)

(八六) 佐 藤 春 夫

花の形をした果実

思 出(詩) (八九) 北 原 白 秋

泪美藍、青い鳥 AIYAN の 歌、刈麦のほろ

松 元 と 林(小説) (九二) ぶ ん ざ

昂 詠 草(歌) (九〇)

各地短歌会詠草(歌) (三三)

一八八一年の独立派展覽会画評(評論)

(J.K. HUYSMANS) (三五) 高 村 光 太 郎

竹 枝 集(詩) (三九) きしのあかしや

こほろぎ、松の木ヤリ (三三)

昂第三年 第一號

明治四十四年一月一日発行 本文二五四頁 附録三〇頁

第二敗鬨録(詩) (三) 高 村 光 太 郎

A UNE AME QUI ÉPIAT OUACA-TAYOU. 失はれたモ

ナ・リザ。友よ。PRESENTATION. 活ける者。模付の国 (三) 小 金 井 き み 子

千 住 の 家(小説) (三) 小 金 井 き み 子

回 想(小説) (三) ヘルマン・パアル  
作 ヒとつ葉生訳

むく鳥通信 (四) 無 名 氏

孤 独(小説) (六) 萬 造 寺 齊

ある日の朝(小説) (九四) 与 謝 野 晶 子

歌 その 一 (九〇) 萬 造 寺 齊

青 年(小説) (一〇〇) 鷗 外



ヨリオの娘(戯曲)

(二〇)

石川ダンメンチオ作  
戯魔訳

歌その二

(二六)

香川不抱等

幼時(小説)

(二七)

茅野雅子

風立てる日(小説)

(二七)

島村琴三

歌その三

(二八)

原田琴子等

習作第二(小説)

(二九)

佐藤春夫

鎖の第一章

冬の夜(小説)

(二八)

平野萬里

続水莊記その三(歌)

(二〇)

吉井勇

歌その四

(二五)

白仁秋津等

痛ましき地獄の画家(評論)

ARSENE ALEXANDRE 作

(二二)

高村光太郎訳

後街歌(詩)

(三五)

さしのあかしや

該里酒、街頭初夏、物いひ、市場所見

歌その五

(三一)

楓郎等

かきおき(小説)

(二四)

ぶんざ

本文一

消息

(五)

附録

信西(戯曲)

(一)

谷崎潤一郎

エレオノラ・デユウゼ(評論)

(一七)

和辻哲郎

編輯後

(三〇)

吉井勇

附録挿画

自由劇場に於ける小山内薫氏

(二) ? ? ?

眞の人影の人

(一三) ? ? ?

夢助と盃と

(一七) ? ? ?

表紙画

藤島武二画・伊上凡骨刀

裏画

木下 奎太郎

LE MASQUE DE QUOTOCA

木下 奎太郎

鼎第三年 第二號

明治四十四年二月一日発行 本文一九二頁 附録一四頁

紀念(小説)

(一五) 森 かげ女

哀歌断片(詩)

(一五) 高村 光太郎

かきおき(小品)

(三) ぶんざ

赤い道(小説)

(三) 石井 柏亭

手紙(小説)

(二五) 江南 文三

歌その一

(六) 長島 豊太郎

むく鳥通信

(三) 無名氏

歌その二

(二三) 原田 琴子等

青年(小説)

(二七) 鷗 外

歌その三

(二八) 段谷 秋洋等

鎌倉より(小品)

(二七) 長田 幹彦

青い小鳥(詩)

(二八) 北原 白秋

青い小鳥、小児と娘、足くび

歌 その四

(二六) 桜沢 如一等

痛ましき地獄の画家 (承前)

(二七) ALEXANDRE 作  
高村 光太郎 訳

論 俳 絶 句 (詩)

(二四) 横川 唐陽

消 息

(一九)

附 録

鉄輪 (戯曲) 執念三部、試作の第一

(二) 萱野 二十一

挿 画

終焉のトルストイ

(三)

引幕のデザイン

(附録の一) 木下 李太郎

表 紙 画

扉

裏 画

藤島 武二

たまのり

山脇 信徳

鼎 第三年 第三號

明治四十四年三月一日発行

本文一〇八頁 附録五二頁

マヂヨリカ皿 (小説)

(三) 茅野 雅子

椋鳥 通信

(九) 無名氏

続水莊記その四 (歌)

(二六) 吉井 勇

青 年 (小説)

(三三) 鷗 外

雷 門 に て (詩)

(四〇) 高村 光太郎

亡命者、鳩、優蝕、食後の酒、失走

途 上 (小説)

シアロム・アツシユ 作  
(四七) ひとつ葉生 訳

歌 その一

(五〇) 香川 不抱

流 水 歌 (詩)

ベタニヤの無花果樹、杏の花、黄昏、涙

(六〇) A DEADLY ARROW 作

歌 その二

(六三) 三ヶ島 葎子等

小 曲 四 章 (詩)

(七〇) 江南 文三

愚 者 の 死 (詩)

(九一) 佐藤 春夫

詩 二 篇 (詩)

(九三) 堀口 大 学

歌 その四

(九五) 財馬 檳榔等

消 息

(一〇〇)

附 録

囊 の 女 (戯曲)

(三) 吉井 勇

和泉屋染物店 (戯曲)

(三六) 木下 李太郎

挿 画

仁左衛門の仕出し

(附録の一) M K 生

メツサの首

(附録の四) BECKLIN

和泉屋染物店の舞台

(附録の二五) M K 生

表 紙 画

藤島 武二

扉 裏 画

M K 生

鼎 第三年 第四號

MOGDAILLE QUI CHANTE

明治四十四年四月一日発行 本文一五四頁 附録二六頁

三つの堤議(評論)

ジエムス・ホイストラ原作

(三) WHISTLER 作  
高村光太郎訳

歌その一

むく鳥通信

口箱(詩)

幻、雀、春、乳牛、声

青年(小説)

寂寥、或日の午後

歌その二

漂泊(小説)

薔薇の咲き初める頃(詩)

薔薇の咲き初める頃、回復期

歌その三

せむしの花(小説)

小曲二章(詩)

病、煙草

詩二篇(詩)

歌その四

長男(戯曲)

街上夜曲(詩)

痛ましき地獄の画家(評論)

朱のあと(詩)

(一〇) 長島 豊太郎  
(一五) 無名 氏

(四) DEADLY ARROW  
(四) 鷗 外  
(五) 高村 光太郎

(六) 広川 菽泉等  
(七) 生田 葵

(七) 茅野 蕭々  
(八) 小沢 あや子等  
(九) 水島 爾保布

(一〇) 佐藤 春夫  
(一三) 清水 一路  
(一四) 中村 三郎等

(一七) 村瀬 仁三郎  
(一八) 新詩社同人

(二〇) ALEXANDRE 作  
高村光太郎訳

(二四) 堀口 大學

女のうた(詩)

消息 録

市のマホメット(戯曲)

挿画

MAY BELFORD

表紙 画

扉裏 画

肌まはし

扉第三年 第五號

明治四十四年五月一日発行

本文九〇頁 附録七八頁

青年(小説)

続水莊記(歌)

椋鳥通信(雜録)

うすわらひ(詩)

痛ましき地獄の画家(評論) 承前

歌その一

卒業前後(小説)

柳河時花歌(詩)

道ゆき、かきつばた、紺屋のおろく

NOSKAI 牡丹、旅役者

(五) なか子  
(五) 秋田 雨雀

(一) LAUTREC

(一) 藤島 武二

山脇 信徳

(三) 鷗 外  
(三) 吉井 勇

(一八) 無名 氏  
(四) 長島 豊太郎

(四) ALEXANDRE 作  
高村光太郎訳

(五) 阿部 肖三等  
(七) 小金井 きみ子

(八) 北原 白秋

歌その二 (六) 三ヶ島霞子等

附 録

首級(戯曲) (一) 和辻哲郎

人魚の船(戯曲) (三) 長谷川虎太郎

濃霧(戯曲) (四) 長田幹彦

夜のユオラス(戯曲) (六) 柴田流星

田舎芝居(詩) (七) 北原白秋

霞 幕(歌) (七) 与謝野晶子

卯第三年 第六號

明治四十四年六月一日発行 本文二〇二頁 附録二四頁

モデルのうたへる歌 (三) 茅野蕭々

モデルのうたへる歌、五月の嵐、五月の朝、嘆き、記憶、梨の若樹  
の下 (此篇 Richard Dehmel) 短章 (Rainer Maria Rilke)

亡きあと(小説) (一七) 小金井きみ子

歌その一 (三) 与謝野晶子

むく鳥通信(雜録) (五) 無名氏

歌その二 (五) 長島豊太郎

青のうた(小説) (七) 鷗外

京のうた(詩) (七) 清水一路

歌その三 (五) 和貝彦太

四人娘(小説) (七) 与謝野晶子

続水莊記(散文) (八) 吉井勇

小曲四章(詩) (九) 佐藤春夫

大吠岬の旅情

歌その四 (七) 茅野雅子

知らずに(小説) (一〇) 島田元麿

声、南風 (詩) (一三) 高村光太郎

五月の消息(小説) (一七) 秋庭俊彦

歌その五 (三〇) 御園紫雲等

菱の花(詩) (三六) 堀口大学

看護婦、猫の眼、川渡、ふところ手、五月のこころもち

歌その六 (四) 段谷秋洋等

少年 (五) 谷崎潤一郎

歌その七 (九七) 三ヶ島霞子等

消息 (一〇一)

附 録

清姫(若くは道成寺) 執念三部試作の第二(戯曲) (一) 萱野二十

幻影と舞台(評論) (一五) 和辻哲郎

表紙画 (一五) 藤島武二

扉裏画 (一五) 藤島武二

面 (一五) 木下李太郎

夏 (一三) 高村光太郎

夏 (一三) 高村光太郎

夏 (一三) 高村光太郎

夏 (一三) 高村光太郎

夏 (一三) 高村光太郎

夏 (一三) 高村光太郎

夏 (一三) 高村光太郎

夏 (一三) 高村光太郎

夏 (一三) 高村光太郎

夏 (一三) 高村光太郎

夏 (一三) 高村光太郎

卯第三年 第七號

明治四十四年七月一日発行 本文二七一頁 附録四六頁

夏。「河内屋与兵衛」。金禱り。なまけもの(マドモワゼルX

に)。「心中宵庚申」。手。緑日。男。狗こる。泥七宝。折騰

むく鳥通信

(三) 無名氏

歌その一

(四) 阿部肖三

未定稿(小説)

(五) 平出修

浴衣の頃(詩)

(七) 堀口大外

青年(小説)

(八) 鷗外

暮れゆく時(詩)  
暮れゆく時。海岸。生活。推移

(九) 茅野蕭々

歌その二

(一〇) 堀口大外

デカダンスの理論

(一三) 後藤末雄

歌その三

(二〇) 長島豊太郎

婦省(小説)

(二四) 大塚生

歌その四

(二九) 清水一路等

山茶花(小説)

(三三) 三島きぬ子

歌その五

(三六) 原田琴子等

初雪(小説)

ギ・ド・モオパッサン作  
(四九) 高村光太郎訳

歌その六

(六四) 島田灌葉等

消息

(七〇)

三新作脚本の上演

(七三) 木下幸太郎

SARAH BERNHARDT

(七五) 長沼重隆

SARAH BERNHARDT

(附録(二四))

表紙画

昂

裏画

藤島武二

似顔

昂第三年 第八號

明治四十四年八月一日発行

本文二九一頁 附録一九頁

青

年(小説)

(三) 鷗外

詩

歌その一

(一五) 清水一路

歌者

町(小説)

(一八) 三ヶ島霞子

水莊後記(歌)

(二二) 平出修

むく鳥通信

(四〇) 吉井勇

詩

(四七) 無名氏

歌

その二  
あつき日。父の顔。めくり曆。夜半。葛根湯。けもの。かるた  
髪を洗ふ女。「おまひら」と「夜の舞踏」と(HOMMAGE  
AUX AUTEURS)。白屋の空気が。地上のモオリザ。泥ごま

蠅

(一〇) 田村黄香

蛇の子の歌(詩)

(二) 長島豊太郎

いたちてつこ(詩)

(三三) 佐藤春夫

歌その三

(三九) 鈴木北溪等

モデル(小説)

ギ・ド・モオパッサン  
(四四) 高村光太郎訳

海

の音(詩)

白鳥。PHANTASMAGORIA

或るや。ART POTIQUE

白鳥。PHANTASMAGORIA

或るや。ART POTIQUE

戦 慄 (詩) (六六) 長島 豊太郎  
 歌 その四 (六七) 原田 琴子等  
 一寸一言 (評論) (七三) 木下 奎太郎  
 歌 その五 (八〇) 沖のかもめ等  
 わたしの詩 (詩) (八八) 町のわかもの  
 わかれ。忍ぶ恋路。ふところ手 (九一)

誘 惑 者 (対話) (一) 後藤 末雄  
 ——ミツシエル・プロヴァンス——

昂 裏 画 藤島 武二

SINNAI DE LA NUIT M K 生

昂 第三年 第九號 明治四十四年九月一日発行 本文二二三頁 附録一七頁

雁 歌 その一 (小説) (三三) 鷗 外

硝子 問屋 (小品) (二六) 堀 花村

——堀花村—— (三三) 無 名 氏

むく鳥 通信 (三五) 水 野 葉 舟

夏の雨。邂逅。黒き光。唇をかむ心。死んだ女。子猫。雨。砂

夢のきめぎは (小説) (七七) 和 辻 哲 郎

歌 その二 (八九) 平出 修  
 読 合 せ (小説) (九五) 与謝野 晶子  
 葬 列 (小説) (〇六) 長島 豊太郎  
 歌 その三 (二六) 段谷 秋洋等  
 塩 ば な (小説) (三三) 平出 修  
 歌 その四 (六四) 加瀬 まく子等  
 訳 詩 二 篇 (七〇) 山本 秃 坪  
 愛の死 (LEIENCRON)。批評家 (DEHMEI)

野 良 心 (詩) (七三) 西村 薄 暮

歌 その五 (七五) 田中 昇 太郎 等

物のきればし (詩) (八〇) 山のわかもの

白 湯 (小説) (八二) 萬 里

附 録 (九一) 谷 崎 潤 一郎

精 間 息 (三三)

附 録 (一) 長谷川 虎太郎

繻 ちる 頃 (戯曲) (一七)

雁 附 録の後に 表 紙 画 藤島 武二

MAGIC 表 画 平岡 権八郎

昂 第三年 第十號 明治四十四年十月一日発行 二二五頁

(小説) (三三) 鷗 外

水 莊 後 記 (一) (歌)

(三) 吉井 勇

歌 その 一 (戯曲)

(一八) 三ヶ島 よし子

嵐 歌 その 二

(三三) 水 上 滝太郎

散 子 (詩)

(元) 阿 部 宵 三

むく鳥通信

(四) 水 野 葉 舟

歌 その 三

(五) 無 名 氏

濁れる悲しみの歌 (詩)

(七) 長 島 豊太郎

亡び行くものの祈禱。墓。犬の死骸。某村の画像。泡沫。フア

(八) 佐 々 木 好 母

雪 の 上 (小説)

—アルチバシエフ作—

歌 その 四

(九) 中 島 清

白 昼 の 夢 (詩)

(一七) 原 田 琴 子

政ちやんの死と其前後 (小説)

(二二) 山 本 禿 坪

影 の 法 会 (小説)

(二一) 生 田 蝶 介

歌 その 五

(二六) 鈴 木 北 溪 等

歌 その 六

(二八) 山 本 禿 坪 訳

歌 その 七

(二七) 原 白 百合 等

人 を 形 (小説)

(二八) 清 水 一 路

歌 その 七

(二四) 三 島 きぬ子

秋 (詩)

(二四) 中 村 三 郎 等

秋 (詩)

(二四) 中 村 三 郎 等

秋 (詩)

(二四) 北 原 白 秋

眠 (小説)

(二五) 岡 田 八 千 代

まんなりずむ

(二九) せがはきくの丞

ぶんざとふたりでうたうころに

(三四)

消 息

藤 島 武 二

表 紙 画

藤 島 武 二

裏 画

小 石 川 の 住 人

EINE TAENERIN.

小 石 川 の 住 人

昇 第三年 第十一號

明治四十四年十一月一日発行 一六四頁

山の焼けたる日の夕がた

(一四) 堀 口 大 学

歌 その 一

(一五) 原 田 琴 子

むく鳥通信

(一六) 萬 造 寺 齊

雨ふる街の晩秋 (詩)

(一七) 無 名 氏

雨ふる街の晩秋。神秘なる夕暮の微光

(一七) 山 本 禿 坪

歌 その 二

(一八) 堀 口 大 学

陸 漆 (小説)

(一八) 堀 口 大 学

歌 その 三

(一九) 鷗 外

歌 その 四

(二〇) 原 田 琴 子

花 火 (小説)

(二一) 原 田 琴 子

歌 その 五

(二二) 久 保 田 萬 太 郎

鮪 間 屋 (小説)

(二三) 原 白 百合 等

歌 その 六

(二四) 長 島 豊 太 郎

歌 その 六

(二五) 段 谷 秋 洋 等

瀟 (小説) (九)

歌その七 (二四) 長田幹彦

不動導 (詩) (二九) 加納とよ子

歌その八 (三三) 北川夕街

旅上二篇 (詩) (四二) 堀口大等

わが夏わが夜。極烈の痴夢

顛狂院へ (小説) (四四) 堀口大等

(詩人の父と詩人の対話)

歌その九 (毛) 尾崎蒼窮

辭憂録序 (歌) (五九) 阿部肖三

ビフテキの皿 (詩) (六二) 吉井勇

消息 (三三) 高村光太郎

肖像 (三) 高村光太郎

品表紙 (画) 藤島武二

水裏 (画) VICTOR HUGO

扉第三年 第十二號

明治四十四年十二月一日発行 一五〇頁

雁 柳。玖 (小説) (三) 鴨 外

歌その一 (一四) 萬造寺 齊

むく鳥通信 (三三) 無名氏

歌その二 (毛) 三ヶ島 霞子

歌その三 (四〇) 三木 桜子

U君の話 (小説) (四二) 松本 泰

歌その四 (四六) 和貝彦太

呪咀のうめき外二篇 (詩) (五七) 佐々木 好母

呪咀のうめき。人買の船。十月の午後の光り

ソラの手法について (評論) (七四) 大貫雪之助訳

——アアサア、シモンズ作一千八百九十三年——

歌その五 (八九) 長島 豊太郎

ゲスタタス (小説) (九二) 山本秃 坪訳

——アナトウル、フランス作——

歌その六 (一〇一) 加納とよ子等

十一月のII (小説) (一〇四) 長沼重隆訳

——November? Gustave Flaubert 作——

一節 切 (詩) (一〇六) 堀口大等

让占。エワの岬。奥の余幽

浴 (小説) (一〇六) 長田幹彦

十一月 月 (詩) (一〇六) 山野 青煙

十一月。音楽に囲まれる家。秋。湖畔。心中重井筒

歌その七 練 (小説) (一〇九) 加藤五采等

未 (三三) 三島 喜ぬ子

清水正次郎を悼む長歌並短歌 (一四) 佐藤 春夫

辭憂録 (一) (歌) (一四) 吉井 勇

蜥蜴



消 息 表 紙 画 (一五) 藤 島 武 二

昴 第 四 年 第 一 號 明 治 四 十 五 年 一 月 一 日 発 行 二 二 五 頁

己 の 葬 (小 説) (三) 嶋 外 訳

(ハンス、ハイツ、エトルス作)

暮 れ が た (戯 曲) (二〇) 久 保 田 萬 太 郎

爵 慶 録 (散 文) (一四) 吉 井 勇

断 髪 (三)

大 葉 子 (戯 曲) (一四) 長 谷 川 時 雨

(一 場)

秋 の 日 (詩) (一六) 長 沼 重 隆

秋の日。無題。唯ひとり。HALLOWEEN

北 の 林 (戯 曲) (一六) 中 谷 徳 太 郎

ISHIYAMA に 登 る 秋 の 月 の 話 (散 文)

(マキシミリアン、ダウテンダイ作)

金 五 郎 (戯 曲) (一四) 出 野 青 煙 訳

歌 (一六) 長 谷 川 虎 太 郎

夢 が たり 評 議 員 会 (戯 曲) (二二) 長 島 豊 太 郎 等

明 治 四 十 四 年 十 一 月 三 日 の 夢 (二五) 水 上 瀧 太 郎

太 陽 に (散 文) (二三) 堀 口 大 学 訳

(モーバサン作)

詩 (三〇) 清 水 一 路

あんま。沈みゆく心

冬 秋 は ふ か し (詩) (一四) 出 野 青 煙

歌 覚 (散 文 詩) (一五) 原 田 琴 子 等

幻 墨 其 斯 哥 よ り (詩) (一五) 堀 口 大 学

夜。秋なれば。爪を磨く女。何がジャポンの。心に雨ふれり(ベルレエン)。あえかにやさしき歌をきけ(ベルレエン)。フオルチニオの唄(ミユツセエ)。ニノンさん(ミユツセエ)

雪 (歌) (一六) 茅 野 雅 子

源 氏 関 屋 (小 説) (一六) 与 謝 野 晶 子

哀 愁 (詩) (一七) 茅 野 蕭 々

歌 (一八) 摩 文 仁 朝 信 等

滯 歌 (一八) 長 田 幹 彦

歌 (一七) 北 原 白 秋

消 息 (一三) 石 引 夢 男 等

表 紙 画 藤 島 武 二

裏 画 な に が し

昴 第 四 年 第 二 號 明 治 四 十 五 年 二 月 一 日 発 行 一 九 四 頁

歌 与 謝 野 晶 子

むく鳥通信 (一五) 無 名 氏

うすごほり (小 説) (一六) 水 上 瀧 太 郎

梨の花咲く頃 (詩) (一六) 大 貫 雪 之 助

雁 (七) 鷗 外  
雨。舞 (八) 竹友 蕨 風

松葉巴 (小説) (六) 五百歌 左二郎

歌い月 (三) 原 百合合等

赤い月 (二) 江馬 修

歌の鳥 (小説) (三) 岡本かの子等

海鳥 (小説) (三) 秋庭 俊彦

歌いちゃん会議 (小説) (四) 殿井 萬里等

椀 (小説) (六) 松本 泰

記憶の影繪 (小説) (七) 山口 駭二

裏 画 (七) 真辺 美朗等

極東の女 (八) 平野 萬里

昂第四年 第三號 明治四十五年三月一日発行 一九〇頁

珊瑚珠の根付 (小説) (三) 堀 花村

破れた翼 (詩) (三) よさのひろし訳

ひと夜—ゼオルジュ、ドユラン—。破れた翼(アンリイ・

ホルドリイ)。酒場(ゼオルジュ・ドユラン)。小うた(アンリ

イ・ホルドリイ) (二) 長田 幹彦

澤 (四) 佐藤 春夫

夜毎わが心のうたふ歌 (詩) (四) 佐藤 春夫

夜毎わが心のうたふ歌。うぐひす

死 (論文) (一) 山本 秃評訳

DE PROFUNDIS (詩) (五) 佐々木 好母

「死をめぐる愉快。祈願。骨牌。七面鳥。肉色の手套。南風。十月の正午」

ひく鳥通信 (小説) (七) 無名氏

雁 (小説) (九) 鷗 外

ふうせん (詩) (五) とよ子

お駒 (小説) (七) 三島 喜久子

詩 (二五) 出野 青煙

ねがひ。浅き嘆き。抒事詩の女王

地獄へ落つる人々 (戯曲) (三〇) 佐佐野 旅夫

(アトリエのある夕)

歌人 (小説) (四) 加納 とよ子等

癡人の出 (詩) (四) 長島 豊太郎

月の出 (詩) (五) 萬里 里訳

あな た (小説) (七) 江南 文三

夜の眺望外一篇 (詩) (八) 茅野 蕭々

夜の眺望・自由の歌(デエメル作)

裏 画

ヴェルレエヌのカリカチユア エエミイル・コホル

昂第四年 第四號 明治四十五年四月一日発行 二三五頁

結婚の朝 (戯曲) (三) 金星 草訳

夕暮方のびあにしも (詩) (三七) 佐々木 好母

——アルトウラル、シユニワル作

蚊 路 (戯曲) (四〇) 灰野 庄平

——兩月物語、蛇性の絆

さ な や き (歌) (三三) 茅野 雅子

毒 杯 (小説) (三五) 後藤 末雄

歌 (二〇) 三ヶ島 霞子等

むく鳥通信 (二三) 無 名 氏

雁 (小説) (二六) 鷗 外

“MONICO” (詩) (四〇) よさの、ひろし

NOCTURNE (詩) (四四) 竹友 藻風

鉞 (小説) (四七) 久米 秀治

詩 (二八) 長沼 重隆

歌 (二八) 鈴木 北溪等

死 (論文) (二九) 山本 禿 坪訳

——モオリス、メエテルリンク作

詩 (二九) 堀口 大 学

青い婦人、暮れ行く窓 注 (小説) (三三) 江南 文 三

路 (詩) (三五) 与謝野 晶 子

消 息 (三三)

裏 画

モオド、アランの希臘踊

扉第四年 第五號 明治四十五年五月一日発行 一九一頁

不 可 説 (小説) (三三) 鷗 外

(HENRI DE RÉGNIER)

祈 禱 (詩) (三三) 竹友 藻風

誘 惑 (小説) (三五) 江馬 修

葬 禮 (詩) (三六) よさの、ひろし 訳

在 巴 里

昔 馴 染 (小説) (三六) 五百歌 左二郎

歌 四 篇 (三六) 原 白百合等

詩 四 篇 (三九) 出野 青煙

黎 明 (戯曲) (三九) 灰野 庄平

遠き国より (詩) (二八) 堀口 大 学

受胎の曲。お花見時分。紅雀。巢鴨の窓。野中の火薬庫。行く春の後姿。太陽は

田舎 芝居 (小説) (三五) 三島 きぬ子

一人の世界 (詩) (三三) 佐々木 好母

太陽の照らす牧場 (小説) (四四) 出野 青煙 訳

(エレンスト、ハルト) 原作

断 片 (小説) (四四) 摩文 仁朝 信等

音 な き 歌 (詩) (三三) 阿部 次郎

三 文 堂 (小説) (三五) 茅野 蕭々

三 文 堂 (小説) (三五) 江南 文 三



湘南秘事(一)(小品)

(二六) 吉井 勇

歌 介 (二六九) 田中昇太郎等

消 息 (二七三)

風 景 画 裏表紙 (二七五)

中沢弘光

昂第四年 第八號明治四十五年八月一日發行 一九六頁

詩 嘩 (小説) (三) 水上 滝太郎

詩 さかづき。他界のひと。水夫のうた (三九) 竹友 藻 風

い て ふ (小説) (三三) 江馬 修

詩 じぶしいの歌へる。美しくしき児の生と死と。初夏 (四) 出野 青 煙

死 の 勝 利 団 (小説) (四七) 石川 戲庵 諷

(ダンヌンチオ)

洪水の前夜の REVERIE (詩) (七〇) 福士 幸二郎

わ ん ぱ く (戯曲) (七五) 五百歌 左二郎

煙 花 (詩) (一〇一) 水野 葉 舟

煙花。砂 (一〇七) 鷗 外 諷

破落戸の昇天 (小説) (一三〇) 高村 光太郎

(FRANZ MOINAR)

友 の 妻 (詩) (一三〇) 高村 光太郎

友の妻。泥七五 (一三九) 北尾 夕 街

目 算 (小説) (一四九) 邦枝 完 二

小 米 桜 (詩) (一四九) 邦枝 完 二

小米桜。花ちる夕

あ く び (小説) (一五)

ひく鳥通信 (二五) 無 名 氏

藤子さん(小説) (二八) 長島 豊太郎

(六月十三日—十五日) (二七) 会田桐の花等

消 息 (二九)

風 景 画 裏表紙 中沢弘光

昂第四年 第九號 大正元年九月一日發行 三〇八頁

睡 眠 前 (小品) (三) 地下一尺生

秘 密。病現 (詩) (八) 出野 青 煙

さざめ雪(小説) (二) 竹友 藻 風

発 車 前 (詩) (二〇) 福士 幸次郎

発車前。春。知慧の実を食べてより

死 の 勝 利 (小説) (二六) 石川 戲庵 諷

(ダンヌンチオの小説第二編父の家)

夜 と 夕 (詩) (三九) 堀口 大 学

六月の夜。薔薇色の夕日。劇場。夜

キタ・ヌオヴ (小説) (三七) 清見 陸 郎

窓帷を引く女(詩) (三五) 千葉 莫 哀

南瓜の帯(小説) (八九) 長島 豊太郎

SCHERZO (詩) (二二) 本山 彌太郎

EL 3 想。ADAGIO

大	歌	詰 (小説)	(二七)	五百歌	左二郎
畜	生	道 (小説)	(二四)	柳下暴	三
句		ひ (対話)	(二五)	平出	修
P	君の批評 (小説)	(二六)	岡田	八千代	
砂		(二九)	松本	泰	
		(詩)	(二七)	水野	葉舟
		砂。風の吹く日。休眠。祈禱			
			(二九)	江南	文三
			(二七)	江馬	修
			(二四)	高村	光太郎
			(三三)	三島	きぬ子
			(三八)	灰野	庄平
			(二六)	広川	菽泉等
			(二七)	鷗	外
			(二八)	田村	胡春等
			(二九)	無名	氏
			(二八)	原	あさを
			(二九)	長田	幹彦
			(二八)		
瓦	斯の光 (裏表紙)			浜田	葆光

第四年 第十號

大正元年十月一日発行 一九一頁

計	画 (小説)	(一)	平出	修
	をさなき旅人に (詩)	(二)	竹友	藤風
	羽ある靴。下枝のかけ。人に。巡礼のうた			
		(三)	五百歌	左二郎
		(四)	出野	青煙
		(五)		
		(六)	石川	戯庵訳
		(七)	山本	禿坪訳
		(八)	北尾	夕街
		(九)	室生	暉星
		(一〇)	鷗	外訳
		(一一)	中川	一政
		(一二)	無名	氏
		(一三)		
		(一四)	浜田	葆光
		(一五)		
		(一六)	古原	若水
		(一七)	阿部	肖三
		(一八)	灰野	庄平訳
		(一九)		
		(二〇)		
		(二一)		
		(二二)		
		(二三)		
		(二四)		
		(二五)		
		(二六)		
		(二七)		
		(二八)		
		(二九)		
		(三〇)		
		(三一)		
		(三二)		
		(三三)		
		(三四)		
		(三五)		
		(三六)		
		(三七)		
		(三八)		
		(三九)		
		(四〇)		
		(四一)		
		(四二)		
		(四三)		
		(四四)		
		(四五)		
		(四六)		
		(四七)		
		(四八)		
		(四九)		
		(五〇)		
		(五一)		
		(五二)		
		(五三)		
		(五四)		
		(五五)		
		(五六)		
		(五七)		
		(五八)		
		(五九)		
		(六〇)		
		(六一)		
		(六二)		
		(六三)		
		(六四)		
		(六五)		
		(六六)		
		(六七)		
		(六八)		
		(六九)		
		(七〇)		
		(七一)		
		(七二)		
		(七三)		
		(七四)		
		(七五)		
		(七六)		
		(七七)		
		(七八)		
		(七九)		
		(八〇)		
		(八一)		
		(八二)		
		(八三)		
		(八四)		
		(八五)		
		(八六)		
		(八七)		
		(八八)		
		(八九)		
		(九〇)		
		(九一)		
		(九二)		
		(九三)		
		(九四)		
		(九五)		
		(九六)		
		(九七)		
		(九八)		
		(九九)		
		(一〇〇)		
		(一〇一)		
		(一〇二)		
		(一〇三)		
		(一〇四)		
		(一〇五)		
		(一〇六)		
		(一〇七)		
		(一〇八)		
		(一〇九)		
		(一一〇)		
		(一一一)		
		(一一二)		
		(一一三)		
		(一一四)		
		(一一五)		
		(一一六)		
		(一一七)		
		(一一八)		
		(一一九)		
		(一二〇)		
		(一二一)		
		(一二二)		
		(一二三)		
		(一二四)		
		(一二五)		
		(一二六)		
		(一二七)		
		(一二八)		
		(一二九)		
		(一三〇)		
		(一三一)		
		(一三二)		
		(一三三)		
		(一三四)		
		(一三五)		
		(一三六)		
		(一三七)		
		(一三八)		
		(一三九)		
		(一四〇)		
		(一四一)		
		(一四二)		
		(一四三)		
		(一四四)		
		(一四五)		
		(一四六)		
		(一四七)		
		(一四八)		
		(一四九)		
		(一五〇)		
		(一五一)		
		(一五二)		
		(一五三)		
		(一五四)		
		(一五五)		
		(一五六)		
		(一五七)		
		(一五八)		
		(一五九)		
		(一六〇)		
		(一六一)		
		(一六二)		
		(一六三)		
		(一六四)		
		(一六五)		
		(一六六)		
		(一六七)		
		(一六八)		
		(一六九)		
		(一七〇)		
		(一七一)		
		(一七二)		
		(一七三)		
		(一七四)		
		(一七五)		
		(一七六)		
		(一七七)		
		(一七八)		
		(一七九)		
		(一八〇)		
		(一八一)		
		(一八二)		
		(一八三)		
		(一八四)		
		(一八五)		
		(一八六)		
		(一八七)		
		(一八八)		
		(一八九)		
		(一九〇)		
		(一九一)		
		(一九二)		
		(一九三)		
		(一九四)		
		(一九五)		
		(一九六)		
		(一九七)		
		(一九八)		
		(一九九)		
		(二〇〇)		
		(二〇一)		
		(二〇二)		
		(二〇三)		
		(二〇四)		
		(二〇五)		
		(二〇六)		
		(二〇七)		
		(二〇八)		
		(二〇九)		
		(二一〇)		
		(二一一)		
		(二一二)		
		(二一三)		
		(二一四)		
		(二一五)		
		(二一六)		
		(二一七)		
		(二一八)		
		(二一九)		
		(二二〇)		
		(二二一)		
		(二二二)		
		(二二三)		
		(二二四)		
		(二二五)		
		(二二六)		
		(二二七)		
		(二二八)		
		(二二九)		
		(二三〇)		
		(二三一)		
		(二三二)		
		(二三三)		
		(二三四)		
		(二三五)		
		(二三六)		
		(二三七)		
		(二三八)		
		(二三九)		
		(三四〇)		
		(三四一)		
		(三四二)		
		(三四三)		
		(三四四)		
		(三四五)		
		(三四六)		
		(三四七)		
		(三四八)		
		(三四九)		
		(三五〇)		
		(三五一)		
		(三五二)		
		(三五三)		
		(三五四)		
		(三五五)		
		(三五六)		
		(三五七)		
		(三五八)		
		(三五九)		
		(三六〇)		
		(三六一)		
		(三六二)		
		(三六三)		
		(三六四)		
		(三六五)		
		(三六六)		
		(三六七)		
		(三六八)		
		(三六九)		
		(三七〇)		
		(三七一)		
		(三七二)		
		(三七三)		
		(三七四)		
		(三七五)		
		(三七六)		
		(三七七)		
		(三七八)		
		(三七九)		
		(三八〇)		
		(三八一)		
		(三八二)		
		(三八三)		
		(三八四)		
		(三八五)		
		(三八六)		
		(三八七)		
		(三八八)		
		(三八九)		
		(三九〇)		
		(三九一)		
		(三九二)		
		(三九三)		
		(三九四)		
		(三九五)		
		(三九六)		
		(三九七)		
		(三九八)		
		(三九九)		
		(四〇〇)		
		(四〇一)		
		(四〇二)		
		(四〇三)		
		(四〇四)		
		(四〇五)		
		(四〇六)		
		(四〇七)		
		(四〇八)		
		(四〇九)		
		(四一〇)		
		(四一一)		
		(四一二)		

歌 湘南秘事(小品) (七) 田中昇太郎等

父の死(詩) (八) 吉井 勇

田舎(小説) (九) 茅野 蕭々

秋 (詩) (一〇) 鷗 外訳

とり入れ。雨の日 (一一) 出野 青煙

むく鳥通信 (一二) 無 名 氏

人 蛙 (一三) 竹友 藻 風

死の勝利(小説) (一四) 石川 戯庵訳

(ダンヌチオ原作)第二篇父の家(承前) (一五) 千葉 莫 哀

舞 踊(詩) (一六) 五百歌 左二郎

金 魚(小説) (一七) 平出 修

ルツソオの懺悔録(紹介) (一八) 息

消 息 (一九) 表紙裏

かるわざ(画) (二〇) 表紙裏

昂第四年 第十二號 大正元年十二月一日発行 一八一頁

田舎(小説) (二一) 鷗 外訳

同時代私議(詩) (二二) 佐藤 春 夫

乃木大将を悼む言葉。乃木大将の死に就いて世の新聞記者に言ふ。偽善者と偽善者。教育ある婦人

か かり 船(小説) (二三) 江口 水 郷

仏燈の影にて(詩) (二四) 千葉 莫 哀

ペコニヤ。こころの卓上

警察の子(小説) (二五) 長 島 豊太郎

詩 SORTES DE CONCERT. 宿命。いこの日か。無題 (二六) 長 沼 重 隆

さ ら ば(小説) (二七) 竹友 藻 風

詩 かもち (二八) 室 生 暉 星

初秋のころ(小説) (二九) 小 寺 健 吉

笛 (詩) (三〇) 堀 口 大 学

路上。笛吹きと娘。夕星 (三一) 無 名 氏

むく鳥通信 (三二) 石川 戯庵訳

死の勝利(小説) (三三) 与謝野 晶子

(ダンヌチオ)第三編隠栖 (三四) 五百歌 左二郎

尼 院(詩) (三五) 吉 井 勇

幸 愛 小 品(小説) (三六) 林 かねを訳

秘密のないスヒンクス(小説) (三七) 林 かねを訳

(ワイルド原作) (三八) 茅 野 蕭々

幼なき子に与ふる歌(詩) (三九) よさのひろし訳

何の為に書くか(論文) (四〇) よさのひろし訳

(EMILE FAGUET) (一九二二年十月廿日の COMEDIA ョリ) (四一) 笹岡 安 正 等

歌 事務室より(紹介) (四二) 笹岡 安 正 等

消 息 (四三) 笹岡 安 正 等

三 人(画) 裏表紙 大概式雄

第五年 第一號 大正二年二月一日発行 三八一頁

馬 丁(小説) (五) 鷗 外訳

(Graf Alexej Nikolajewitch Tolstoj)  
老人づれの踊。穀物車の挽子。死

野 のあなた(詩) (二六) 与謝野 寛訳

——エミル・ツルハアレンの新詩集より——

処 女 作(小説) (三五) 江馬 修

A MON "BORIN" (断章十六)

廃 物 船(小説) (六) 北尾 夕街

破 むく鳥通信 (二〇) 無名氏

旅に出でて歌へる(歌) (二五) 竹友 藻風

死の勝利(小説) (三二) 佐々木 好母

(ダヌヌチオ)第三篇譯稿

詩 歎 章 (二六) 佐藤 春夫

夜の意義。断章。大なる自由と正義と。墨の芽生。われ何が故に生くるや

未 亡 人(小説) (七五) 平出 修

渡歌の途にある平野萬里に倦す

寂 しき日(詩) (二〇) 長沼 重隆

「ひろいん」青き花と眼を病む女

はかなごと(歌) (三三) 原 あさを

つつしみ(詩) (三四) 出野 青煙

あきらめ。厭離のこころ。つつしみ

哀 慕(歌) (三九) 神尾 てる子

水 葬(詩) (三二) 竹友 藻風

展望一妹に。水葬

口 力(小説) (三五) 長島 豊太郎

焔 (歌) (四二) 与謝野 晶子

ヘルゲランドの海賊(戯曲) (四七) 萬造寺 齊訳

(イブセン)原作

木々の物語(詩) (五〇) 上田 敏訳

(レミ・ドゥ・グルモン)原作

小 刑 吏(小説) (三〇) 江口 渙

おまはり(詩) (三三) 江南 文三

往 來(小品) (三四) 岡田 八千代

路 傍の 人(小説) (三七) 茅野 蕭々

錫 嶺 悲 劇(戯曲) (三五) 灰野 庄平

消 息 (三六) 清宮 彬

品(表紙画) ノオトルダムのシメエル(裏画) ゴチツク彫刻

幼 い 子(小説) (五) 江馬 修

わ が 手(歌) (三〇) 原 阿佐緒

ヘルゲランドの海賊(戯曲) (三五) 萬造寺 齊訳

(イブセン原作)



母上様

心づくし(歌) (六) 阿部 育三

死の勝利(小説) (七) 石川 戯庵

旅のあはれ(歌) (二〇) 堀口 大学

愛らしき神様の話(小説) (二五) 久保正 夫訳

Rainer Maria Rilke 他国の人  
死 顔(詩) (三二) 長田 秀雄

死顔。女郎蜘蛛。初雪  
をばさんの別荘(小説) (三七) 和辻 照子

壁の香(歌) (三五) 鈴木 北溪

拍子木の音(小説) (三六) 尾島 菊子

むく鳥通信 (三七) 無名 氏

馬 丁(小説) (三九) 鷗 外訳

吉井勇氏の「水荘記」を読む(評論) (四〇) 佐々木 好母

紹介 (四二) 佐々木 好母

消息 (三三)

羅ダンの「考へる人」(裏面)

第五年 第三號

大正二年三月一日発行 本文一八九頁 附録八四頁

宝 石(詩) (五) 竹友 藻風

寶石。燃ゆる晶玉。夢の思

医 者(小説) (八) 中島 清訳

(M. ARTZBASCHEW)

砂 (詩) (四) 水野 葉舟

雁が女(小説) (四七) 鷗 外

七面鳥。わが女 (五八) 佐々木 好母

死の勝利(小説) (六三) 石川 戯庵訳

(ダヌヌチオ) 第四篇新生

歌 (六〇) 三ヶ島 よし

むく鳥通信 策(小説) (六三) 無名 氏

金 (六〇) 平出 修

歌 (六四) 堀口 大学

聖ワンドリトユ訪問記 (六六) 灰野 庄平訳

——チアイルス・ヘンリー・メルツァー——

この日ごろ(歌) (六五) 柏木 松雄

滝 (六五) 江馬 修

歌 (六六) 原阿 佐緒

おはりに(詩) (六六) 出野 青煙

おはりに。ある日。かへりみ。なぐさめ。なげき。比喩

影の城(詩) (六七) 茅野 蕭々

影の城。死せる飛行

編輯室より (六七) 地下一尺生

消息 (六七)

附 録

白鳥 姫 (戯曲)  
義太夫を聞く人 (裏面)

(三) 荻野 二十一 訳  
木下 李太郎 画  
藤野 常夫 刀

昂第五年 第四號

大正二年四月一日発行 二〇〇頁

心づくし (小説)  
一つの薔 (詩)

(五) 水上 滝太郎  
(六) 佐々木 好母

精霊ときやまん。踊り子。恋は人魚に。予言者。狂気する日が二十四人。一つの薔

死の勝利 (小説)

(五) 石川 戯庵 訳

(ダンヌチオ) 第四編新生

小 祇園。木の芽 曲 (詩)

(六) 室生 犀星

狸 祇園。木の芽 (小説)

(七) 北尾 夕街

むく鳥通信 (小説)

(二七) 無名氏

読後抄 (詩)

(三七) よさのひろし 訳

(ルイ・アウゲマアルの詩集より、一九一二年十一月巴里にて) 瓜哇の踊 (アルトゥル・シモン)。真珠採 (ジアン・テイベアウル)。穀倉 (アンリイ・モロオ)。葡萄 (ディエエ・ムウラン)。賤民 (マルセル・エドモンド・ネジエラン)。ANTILLES 島の春 (ダニエル・タリイ)

馬 丁 (小説)

(三) 鷗 外 訳

悲しき王 (詩)

(四) 出野 青煙

悲しき王。三月。散歩。深夜

歌 病床にて詠める

春が逝く (戯曲)

(五) 岡田 八千代

詩 わが心。女のうた。業窓

伯林 劇信

(二七) 竹友 藻風  
(二八) 萬里 生  
(二八) 長谷川 濤 涯  
(二九)

「畜生道」を讀む 紹介

昂第五年 第五號

大正二年五月一日発行 二二二頁

雁 (小説)

(三) 鷗 外

歌 結婚前 (小品)

(一五) 三ヶ島 よし

結 婚 前 (小品)

(一九) 辻 永

むく鳥通信 (小説)

(三) 無名氏

歌 忘れ得ぬ女 (小説)

(四) 堀田 大学

忘れ得ぬ女 (小説)

(五) 川浪 道三

はかなごと (歌)

(六) 神尾 光子

死の勝利 (小説)

(七) 石川 戯庵 訳

(ダンヌチオ) 第四編新生

詩 片思、青煙に

(八) 竹友 藻風

青い鳥 (戯曲)

(九) 齋藤寅一 訳

(MAURICE MAETERLINCK)

恋 愛 (小品)

(四) 吉井 勇

伯林 劇信

(四) 平野 萬里

復活祭前後

(二) 鈴木 北溪

朽ちゆく人 (小説)

(二) 鈴木 北溪

塔の夕 (詩)

(五) 茅野 蕭々

塔の夕。知らぬ焔

鷹の夢(小説) (一八) 岡田 八千代

生活と精霊(感想) (二〇) 灰野 庄平

消息 (三一)

エミル・エルアアレン氏肖像(裏画) アウ・フオルト・ド・トリプツ氏画

第五年 第六號 大正二年六月一日発行 一九六頁

愛の園(詩) (一五) 茅野 蕭々

受付室(小説) (二) 北尾 夕街

青い鳥(戯曲) (五) 柏木 松雄

(MAURICE MAETERLINCK) (五) 齋藤 寅一訳

ためいき(詩) (一〇) 佐藤 春夫

花の匂(小品) (三) 竹友 藻風

受胎(詩) (二七) 出野 青煙

「遊蕩児」の訳者に寄せて少し許りワイルドを論ず

歌 (三三) 佐藤 春夫

(三八) 和貝 彦太

巴里より (四一) K Y 生

(よさの・ひろし宛)

歌 (四二) 原阿佐緒

むく鳥通信 (四八) 無名氏

馬丁(小説) (五) 鷗 外訳

(GRAF ALEXEI NIKOLAJEWITSCH TOLSTOI)

読後抄(詩) (一六) よさのひろし訳

(ルイ・アウゲマアルの詩集より、一九一二年十一月、巴里にて)

鴉。夜の床のうへより。田舎。孤独。無感覺。慰めてくれ

乞食の夫婦(小説) (七五) 江馬 修

伯林劇信 (一八) 平野 萬里

昇天祭迄

紹介 (一九) 里

消息 (一九) 里

フアウノの仮面(裏画) ミケランヂエロ作

第五年 第七號 大正二年七月一日発行 二二五頁

馬丁(小説) (五) 鷗 外訳

(GRAF ALEXEI NIKOLAJEWITSCH TOLSTOI)

六月の森のころ(詩) (三) 出野 青煙

絶交(小説) (一〇) 平出 修

むく鳥通信 (四二) 無名氏

受付室(小説) (四九) 北尾 夕街

(続篇)

歌 (九) 原阿佐緒

朝の影(小説) (一〇) 中島 清訳

(アルチバアセフ作)

巡禮(詩) (三三) 竹友藻風

巡礼。母。女のうた。水曜の朝。ふるさと

日常悲劇(感想)

(一三) 灰野庄平

青い鳥(戯曲)

(一七) 三ヶ島よし

(MAURICE MAETERLINCK)

(一〇) 齋藤寅一訳

夏二章(詩)

(一六) 茅野蕭々

菩提樹、直感

報償(小説)

(一七) 萬造寺齋訳

(ストリンドベルヒ原作)

アンリイ・マチイス(評論)

(一八) 高村光太郎訳

——マルセル・サムバア——

伯林の芝居とゼツエツシヨ

(一九) 平野萬里

伯林にある平野君へ

(二〇) 平出修

消息

(二五)

西藏の女神像藍婆(裏画)

昂第五年 第八號

大正二年八月一日発行 一九八頁

秋(ゾーテルマン作)

(一七) 萬造寺齋訳

歌杓子山(小説)

(一五) 原阿佐緒

むく鳥通信(海外通信)

(一五) 平出修

深空(詩)

(一八) 無名氏

深空。水日。酒場。蛇

(一九) 室生犀星

刺絡(小説)

(一九) 鳴外訳

(Karl Hans Strobl)

霧の奥の温室(詩)

(二四) 佐々木好母

青い鳥(戯曲)

(二七) 齋藤寅一訳

(Maurice Maeterlinck)

(二六) 堀口大宇

A NINNA. (歌)

(二六) 中島清訳

朝の影(小説)

(二九) 鈴木北溪

(アルチバセフ作)

私曲(小説)

(四〇) 三島きぬ子

小曲(詩)

(一五) 竹友藻風

セエゾンの終り(海外通信)

(一八) 平野生

沢田君に(歌)

(一六) 三文堂

SACRILEGE (評論)

(一六) 佐藤春夫

新らしき歴史小説の先驅「意地」を読む

紹介

(一九)

消息

(一九)

SEM の THEATRE DES CHAMPS-ELYSEES の壁に描ける装飾画(裏画)

昂第五年 第九號

大正二年九月一日発行 三二八頁

三人の従兄弟(小品)

(一五) 木下奈良太郎

秋思(詩)

(二二) 室生犀星

秋思。水馬。蟬頭。椎の蔭

少年(戯曲)

(二六) 島村民蔵訳

むく鳥通信

(二五) 無名氏

(Max Hale. 作)

破られた百合 (小説) (二七) 江馬 修

刺 絡 (小説) (二七) 原 あさを 外訳

秋 秋。生命の清。ときめき (詩) (二六) 茅野 蕭々

決 闕 (小説) (二四) 萬造寺 齊訳

真 珠抄 (歌) (三三) 北原 白秋

青 い鳥 (戯曲) (三三) 齋藤 寅一訳

休 暇 (戯信) (二五) 平 野 生

朝 の影 (アルチバセフ) (二六) 中島 清訳

歌 哈市追憶 (小品) (二五) 三ヶ島 よし

涙痕を読む (評論) (二七) 柏木 松雄

詩集「祈禱」を読む (評論) (三四) 出野 青煙

紹 介 (三七) 灰野 庄平

消 息 (三六) 蛙 (裏函)

第五年 第十號 大正三年十月一日発行 一八三頁

歌 (伯林にひますHの君に) (一五) 原田 琴子

刺 絡 (小説) (二) 鴨 外訳

浮 彫 (詩) (三三) 竹友 藻風

朝 の影 (小説) (二六) 中島 清訳

生 と鳥通信 (アルチバセフ作) (二五) 無名 氏

太陽の方へ (小品) (三七) 萬造寺 齊訳

街 花 (戯曲) (二四) 原 あさを

濁 酒 (小説) (二五) 水守 龜之助

巴里より (二六) 与謝野 寛訳

歌 五百歌 (二五) 左二郎

紹 介 (三七) 水 上 滝太郎

消 息 (三六) N 生

消 息 (三六) S 齋 齋

モーパッサンの墓 (裏画)

第五年 第十一號 大正二年十一月一日発行 二五五頁

戦争中 (戯曲)

(一五) 小野秀雄訳

歌 (ビヨルソン)

(一六) 原 あさを

むく鳥通信

(一七) 無名氏

ねががひ

(一八) 出野青煙

夜半の空中飛行 (感想)

(一九) 地下一尺生

送葬歌 (小説)

(二〇) 萬造寺 齊訳

歌 金持の心配 (小説)

(二一) 原田 琴子

雪 (詩)

(二二) 平出 修

雪・樹よ

(二三) 佐藤 春夫

工 人 (詩)

(二四) 鷗 外鈔

芸術座のモンナヴァンナ (有楽座の九月)

(二五) 長島 豊太郎

小曲 五章 (詩)

(二六) 岡田 八千代

(ダンヌマテヨ)

(二七) よさの ひろし

白き手の獵人三木露風

(二八) 灰野 庄平

黄蠟の灯の花 (感想)

(二九) 平出 修

消 想

(三〇) 万造寺 齋訳

サ ロ メ (裏画)

(三一) 萬造寺 齋訳

第五年 第十二號 大正二年十二月一日発行 二〇三頁

夜ふけには (詩) (一) きしのあかしや

防 火 栓 (小説)

(一) 鷗 外訳

(Georg Hirsolfeld)

(二) 茅野 蕭々

充 その頃。充実 (詩)

(三) 原田 琴子

林 中日記

(四) 神尾 光子

歌 (伯林なる君に)

(五) 中島 清訳

朝 の 影

(六) 竹友 藻風

(アルチバセフ)

(七) 無名氏

う た。われらの心。しづかに。日の終

(八) 伊藤 只聴

むく鳥通信

(九) 林 かねを訳

歌 ザンチツベとソクラテス (戯曲)

(一〇) 北原 白秋

歌 (ベアリング)

(一一) 長島 豊太郎

闇の夜の粟畑 (詩)

(一二) 平出 生

小曲 五章 (詩)

(一三) 生田 春月

病床より (詩)

(一四) 萬造寺 齋訳

(ニイチエ)

(一五) 秋葉良平等

アルヘルト (小説)

(一六) ファイニンゲル

(レオ・トルストイ)

(一七)

裏 画

(一八)

秋 葉 良 平 等

(一九)

ファイニンゲル

(二〇)

## あ と が き

☆「スバル」は明治四十二年一月一日創刊号を出してより毎月一回の発行を続け、大正二年十二月一日、第五年第十二号をもつて廃刊するまで通算六拾冊を世に送った。この雑誌は最初東京市麹町区平河町五丁目金尾文淵堂より発行することになつてしたが、その後破約となつたので同人の平出修がその財政上の負担を引受け、彼の自宅であり弁護士としての法律事務所である、東京市神田区北神保町二番地に「畢發行所」をおいて創刊した。なお畢發行所は大正二年六月平出の転居に伴い東京市芝区芝公園五号地十二に移つてゐる。發行名儀人は最初の一年間石川啄木が引受けたので、雑誌の奥付にも「東京市本郷区森川町一番地新坂三五九蓋平館別荘 石川一」となつてゐるが、第二年第一号から「東京市小石川区原町十番地 江南文三」と変つた。

江南文三は終刊までその發行名儀人となつてゐる。印刷者は全巻を通じて「東京市神田区美土代町二丁目一番地 島連太郎」で、印刷所は同番地の三秀社。雑誌の売捌は東京堂、上田屋等が引受けてゐる。

雑誌は毎号菊判二百頁内外を建前としてゐるが、第五年第一号のように三百八拾一頁に及ぶ大冊もある。(この総目次には各号の發行年月日の下に頁数を示しておいた。)定価は普通号式拾五錢、特別号參拾錢であるが、途中から普

通号參拾錢、特別号參拾五錢に値上した。前述の第五年第一号などは定価五拾錢である。

編集者は創刊号平野萬里、第二号石川啄木、第三号木下奎太郎、第四号吉井勇、第五号栗山茂、平出修で、主要同人が交替して編集してゐるが、第九号よりは江南文三が主としてこれに当り、吉井勇、和貝彦太、長田幹彦等がときどきこれを助けた。なお大正二年九月江南文三が大学を卒業して千葉中学校に赴任してからは萬造寺齋に依頼してゐる。しかしまもなく廢刊した。

☆本稿は筆者の研究テーマの一つである「スバルの文学活動」に関する研究のうち、その資料篇をなすものである。

☆本稿の作成に當つては各誌の目次と本文を總密に照校し、出来るだけ詳しく正確なものにするよう留意した。

☆この総目次は筆者所蔵の「スバル」を底本とし、若干の欠号については函館図書館及び吉田精一先生御所蔵の同誌によつて調査した。

☆本稿の発表はひとえに北星学園女子短期大学の山田基男、高久真一、永田勝彦三氏の御高配によるものである。また目次の編集については北大文学部新岡進一氏の御助言と、函館の工藤倭文子、江口紀子両嬢の御協力を得た。共に厚く御礼申し上げる。

昭和三十二年四月二十二日記

(本学助教)